

談話室

ワープ雑感

末定泰彦*

Yasuhiko Suesada

辞書でwarpは「1. 歪む」となっている。重要な単語ではないようで、特に出会った記憶もない。ところで、ワープはSFの中では、時空間の超越速度での移動、または随伴する種々の事象を表わすのに、それぞれ猛烈に使われている。

* * *

話を、私がワープ感覚の原点としているものから始めよう。嗅覚が記憶に占めている場所は通常は奥深く小さい。それだけに雑多な上書きで汚されていない。私の場合、特定の匂いをトリガーとして、昔の情景に急速にワープする。トリガーが掛かるのは10年に一度位、稀である。匂いは、母方の土蔵の裏庭のもので椿・杉の生け垣・日の当らぬ草むらなどが入り混じりオハグロトンボやイトトンボが浮くともなく止まっている情景につらなる。トリガーは突然掛かる。全然違った情景の中、車で走っている時、都会の真ん中でバツリと出会う。再現は記憶が戻るといった弱々しいものではない。一瞬、時空を飛び越えスパッと情景が戻る。

* * *

1年程前だが、ブラリとレコード店に入ったら、もう溝付きレコードなるものはCDに駆逐されて無かった。ここで一種ワープ感覚を味わった。TVでは、高品位を見ても、特にワープ感は起きない。むしろ、画像伝送規格を定めたその時点の技術の確かさに逆ワープしたりする。

常温超電導・核融合のニュースが入って来た時も、一種のワープの感覚で世上受け取られたに違いない。常温核融合現象に関しては少し逆風だが、衝撃核融合も控えており、ワープの種子として残って欲しいものである。

電話回線経由でワークステーションを手元からモデム経由で操作することがある。確か、昔習った理論では電話回線の最高通信速度は3千ボーであった。今の

は、完全に突き抜けた双方向1万ボー以上で連結してくれる。難しい圧縮技術とかがからんで実現されたものであろうが、私はワープの感覚で単純に喜んで使っている。この種モデムにはいくつかの製品があって、相手の種別を手探ぐりして異機種だと、より低速（確立した規格の）で手を結ぶ。この辺の規格との取引きはダイナミックで、異文化の匂いがする。そういえば、海外の異文化空間ではワープ感覚を経験し易い。

* * *

昨夏、本会のヨーロッパ技術調査団に参加させて貰った。印象に北欧の熱利用度の高さが残る。当然、風土の違いがある。日本では、厄介にも夏の冷熱と冬の温熱を考えねばならない。条件の複雑さと温暖気候が熱利用の総合化を少し押し止めて来た。だがもう、日本の状況にマッチした熱利用システムを作り上げて行かなければならない場面に来たと思う。

北欧の熱利用を支える地味な存在がkwh熱単位とその普及である。ある家庭の1ヶ月の熱消費は〇〇kwhといった具合である。当然に取引単位にもなる。国内の教育の場ではIS単位系として既に取り込み済みとのことだが、産業界や実社会の中にまだまだ入りこんでいない。本来の電気kwhに関しては慣れているのだが、調査先でのkwh熱単位での説明には、一瞬ワープ感（めまい）がした。立ち直りとともに、透徹して合理的な存在に見えてきた。熱の風土への親しみが増した印象である。

* * *

「kwh単位など電気屋の陰謀だ」とイキマク向きもあるかも知れぬ。何せ従来の単位系から見ると、一次側定量ですらない。クドクドしい説明は避けるが、わが国の熱利用の高度化や地球環境保全の為にも、この隠れたスグレモノは早急に利用すべきだと思う。数理学が零のシンボルを得て高まったと同様なワープが、kwh熱単位を得た熱利用の場で起こる予感がするのである。